

森恭三（もりきょうざう）評論家。明治四十年九月、二十四日兵庫縣生れ、昭和五十九年二月十五日歿（一九七六）。昭和五年東京帝國大學法政學部卒。

大阪朝日新聞社入社、ニューヨーク支局員、海軍報道班員等々を経て、二十七年ヨーロッパ總局長、二十九年論説主幹。

著書『現代ジャーナリズム論—その分析と批判』（合著・關西學院新聞部編、昭和二十二年八月十五日大阪・駿々堂）、『ヨーロッパ通信』

昭和二十四年七月十五日みずが書房『みずが・ぶろぐ』（）、『書生上

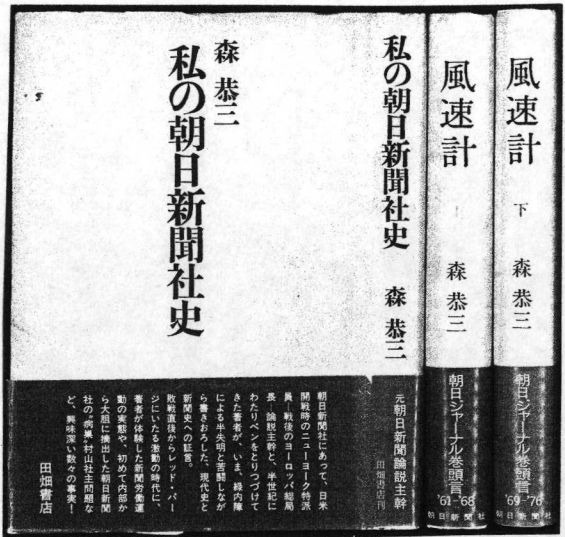
論的政治論』（昭和二十六年七月）みずが書房（）、『わたしの一

十歳』（合著・巖谷止造編、昭和四十二年一月十五日旺文社）旺文社

文庫』（）、『風速計』全二冊（上、下、昭和五十二年十一月十日朝日

新聞社）、『私の朝日新聞社史』（昭和五十六年九月）二十日田畑書

店（等）。



風速計 下 森恭三

風速計 森恭三

私の朝日新聞社史 森恭三

森恭三
私の朝日新聞社史

朝日新聞社にあって、日本開戦時のヨーロッパ特種員、戦後のニューヨーク特種員、長崎特派員と、半世紀にわたりペンと口をつつじてきた著者が、いま、戦時体制による半失明と苦悶しながら書きおろした、現代史と新聞史への証言。
取材地からレコード、パースにいたる活動の時代、筆者が体験した新聞労働運動の歴史や、初めて内部から大衆に提出した朝日新聞社の改革村山社主面談など、興味深い数々の事実！

田畑書店